



万博史上初！世界の安全専門家が日本に集結！

Global Initiative for Safety, Health & Well-being

@EXPO2025 and Beyond (GISHW)による

「安全・健康・ウェルビーイング」イベントの大阪・関西万博での開催

日本発「協調安全」の考え方と日本発「SA・RSA・SO安全資格制度」 の国際浸透に向けた世界への発信



Global Initiative for Safety, Health & Well-being at EXPO2025 and Beyond
Executive Committee, Chairperson



Global Coalition for Safety and Health at Work
Task Group on Vision Zero at the Enterprise Level, Member



IEC/SC121A/WG3(制御機器・制御システム)
Expert Member



日本認証株式会社
代表取締役会長



IDEC株式会社 名誉顧問
Chief Safety, Health and Well-being Officer



日時: 2025年2月21日



(一社) セーフティグローバル推進機構 (IGSAP)
理事(兼)エグゼクティブ委員会委員長
藤田 俊弘(工学博士)

THE GLOBAL INITIATIVE FOR SAFETY, HEALTH AND WELLBEING @EXPO2025 AND BEYOND

The logo for EXPO 2025 Osaka, Kansai, Japan, featuring a red circular design with white dots and the text 'EXPO 2025' below it.

EXPO2025
Days on
Safety, Health & Well-being for All

OSAKA, KANSAI, JAPAN

16 to 19 July 2025

SUMMIT - WORLD ASSEMBLY - SYMPOSIUM - ILO YOUTH CONGRESS - FESTIVAL - THEME PARK/EXHIBITION

A circular logo with a red and white design. The text 'THE GLOBAL INITIATIVE FOR SAFETY, HEALTH & WELL-BEING' is around the top, 'Safety Health Well-being' is in the center, and 'For All AT EXPO 2025 AND BEYOND' is around the bottom.

The First Safety, Health & Well-being event in EXPO history!

HIGH-LEVEL SUMMIT

INTERNATIONAL SYMPOSIUM

FESTIVAL

WORLD ASSEMBLY

ILO YOUTH CONGRESS

EXHIBITION/THEME PARK

INTERNATIONAL STANDARDIZATION FORUM (July 16, 2025)

COMPANY TOURS

SIDE EVENTS



「安全・健康・ウェルビーイング」デイズ・プログラム

2025年7月16日～19日に下記7つのイベント開催
(2025年7月15日企業・現場見学会開催)

➤ **SUMMIT**

➤ **WORLD ASSEMBLY**

➤ **INTERNATIONAL SYMPOSIUM**

➤ **FESTIVAL**

➤ **ILO YOUTH CONGRESS**

➤ **EXHIBITION / THEME PARK**

➤ **INTERNATIONAL**

STANDARDIZATION FORUM

EXPO内

EXPO内+INTEX大阪

EXPO内+INTEX大阪

EXPO内

EXPO内

EXPO内+INTEX大阪

EXPO内



EXPO HALL (MAX 2,000名)

シンポジウム・国際会議・展示会でこれからの
安全やウェルビーイングを世界の専門家と共に討議・推進する場

<https://gishw.com>

国際標準化フォーラム

July 16, 2025



一般財団法人日本規格協会
朝日 弘 理事長

日本から発信された、人・機械・環境を ICT 技術で連携し、安全性と生産性を同時に向上させる「協調安全」という新しいアプローチを解説する IEC 白書 "Safety in the Future"



・2020年に経産省支援で日本発 IEC 白書 "Safety in the Future" 発行。ホリスティックアプローチの重要性を訴求。
・IEC ACOS から日本提唱の国際規格「IEC GUIDE 127」が日本主導で2025年に発行予定。

国際標準化活動は、未来の働く環境における 安全・健康・ウェルビーイングを支える重要な基盤です。国際的な基準が整備されることで、企業はより安全で健康的な職場環境を実現し、グローバル市場での競争力を強化することができます。本フォーラムは、ISOとIECのトップと共に、万博の場で国際規格の重要性を話し合う史上初の機会であり、また世界中の専門家が一堂に会し、標準化の必要性や最新の動向について議論を深めます。

今後の国際規格の方向性を把握することで、企業は変化に柔軟に対応し、持続可能な成長に向けた戦略を構築することが可能になります。企業経営戦略において、国際標準化の動向を理解し、市場競争力の強化につなげることは極めて重要です。標準化のプロセスに関与することで、自社の技術や知見を活かし、業界全体ひいては世界の発展に貢献することができます。本フォーラムを通じて、最新の知見を深めていただき、今後の取り組みにぜひお役立てください。

1st Executive Meeting @23rd WCSH Sydney
November 27, 2023



2nd Executive Meeting @Intex Osaka
November 13, 2024



Executive Committee Members



Organizing Committee Members



More members
to join!

過去25年間における藤田俊弘の主な活動内容



一般社団法人 日本電気制御機器工業会
NIPPON ELECTRIC CONTROL EQUIPMENT INDUSTRIES ASSOCIATION

1999年から2024年までの25年間に亘り、NECAの制御安全委員会委員長並びに副会長を務める。NECAの制御安全委員会活動において、スキームオーナーとしてSA資格認証制度を設立。



(一社)セーフティグローバル推進機構
セーフティアソシエツ協議会
Safety Associates Council

2008年9月SA協議会を設立。2016年には、活動の基盤強化等を図るため(一社)セーフティグローバル推進機構(以降IGSAP)へ総会決議により合流し、2019年に「セーフティアソシエツ協議会」へと発展改組。資格者の社会的認知度、地位向上、技術力向上、資格者間情報交換の円滑化等を目的に様々な活動を展開。



日本認証株式会社
JAPAN
CERTIFICATION
CORPORATION

2003年に日本認証(株)を創業し、それ以来代表取締役会長を務める。日本における認証事業構築の必要性をNECA会員企業の有志に呼びかけ、日本認証の中核事業として、SA関連資格事業を推進すると共に、経産省からのご支援を受け、協調安全の国際標準化事業を推進。



一般社団法人
セーフティグローバル推進機構
The Institute of Global Safety Promotion

2016年にIGSAPを創業し、以来、理事(兼)エグゼクティブ委員会委員長を務める。日本発の新しい協調安全の普及・促進や国際標準化に向けて国際機関との仲間づくりが必要であることから、国際連携等を中心的に推進中。現在EXPOにおけるGISHWイベントの責任者を務める。



一般社団法人 日本ロボット工業会
Japan Robot Association

日本のモノづくり産業の中核であるロボット分野の工業会活動や国際標準化活動に参加し、その後、2010年から2024年まで一般社団法人日本ロボット工業会(JARA)理事を務め、技術委員会副委員長等を兼任。



International Conference on
Safety of Industrial
Automated Systems

2001年からSIAS国際会議に参加し、2005年以降はSA資格認証制度等の重要性を日本から発信し、国際標準化の重要性を提唱。2005年からSIAS(Safety of Industrial Automated Systems) Scientific Committeeのメンバーを務める。近年は協調安全の重要性を多くの仲間と世界へ発信。



Global
Coalition
for Safety
& Health
at Work

国連専門機関のILOが主導する、Global Coalition for Safety and Health at Work, Task Group on Vision Zero at the Enterprise Levelという、世界中の企業に安全・健康・ウェルビーイング(Vision Zero)を実現するための活動に、2020年からアジアを代表しての参画を要望された。Vision Zero Summit Japan 2022を日本サイド責任者として推進し、大阪関西万博イベント開催へ繋がった。

Global Initiative for Safety,
Health & Well-being
at EXPO2025 and Beyond

GISHW Executive Committeeチェア。向殿先生提唱の「マイナスからゼロ」にとどまらず、「ゼロからプラス」を目指す協調安全の推進を目的とし、国内外の仲間づくりを進める。大阪万博の場を活用し、世界各国から「安全」・「健康」・「ウェルビーイング」の専門家を招き、新しい安全や資格制度の重要性について、技術展示会やシンポジウム等の様々なイベントを開催計画を推進中。



2000年から2030年までの30年間の「安全・健康・ウェルビーイング」の歴史と展望 日本の取るべきリーダーシップとそのチャンス到来！

グローバルイニシアチブGISHW発足

日本での安全国際会議
VZSJ2022大成功！

日本からの新たな考え方
「協調安全」の提唱

継続的にテクノロジー・インバウンド
を実行し、サウジアラビアへ繋ぐ！

万博での仲間づくりを契機に日本が
国際標準化やロボット産業創成をリード

第2回GISHW会議で「国際
標準化フォーラム」開催決定

「安全・健康・ウェルビーイング」
が世界初の万博テーマに！

ウェルビーイングを重視する
欧州からのVision Zero潮流

国際安全標準
の黒船来航



2000年

2030年

内容

1) 日本が目指す新しい時代の安全・安心・ウェルビーイングと生産性向上の考え方

- 1980年代からの世界の安全国際標準潮流について
- 2015年日本発提唱の協調安全とポジティブ安全とは？

国際標準の潮流
&
協調安全の提唱

2) 国際的な仲間づくりと海外機関と連携推進

- SIAS2024フィンランド国際会議での協調安全の浸透
- Vision Zero Summit Japan 2022の成功による国際連携ネットワークの拡大

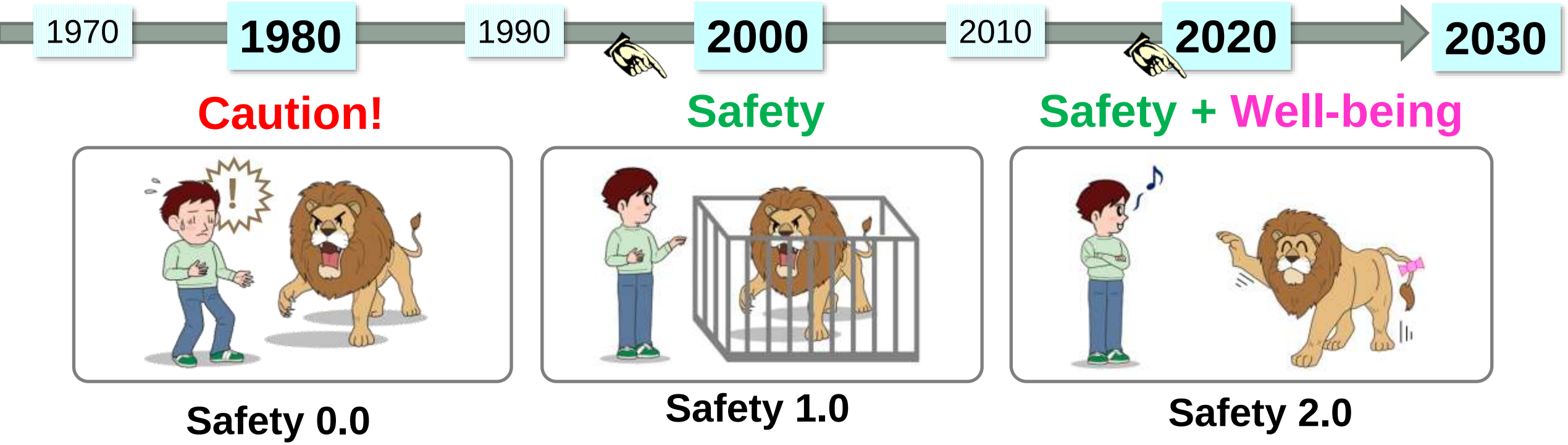
国際的仲間づくり
&
世界連携の重要性

3) 日本が安全・安心・ウェルビーイングと生産性向上のリーダー国となるビジョン

- 国際会議と国際展示会の日本定期開催による国際標準化リーダーシップ
- EXPO2025での2000人の海外専門家との世界初イベントによるトリガー
- 経済産業省・日本規格協会・工業会 & 国際機関・海外有識者との連携継続

EXPO2025活用の
アクションと
ビジョン

安全の考え方の20年周期での変化と 日本から提唱している協調安全（ロボットをライオンで示す）



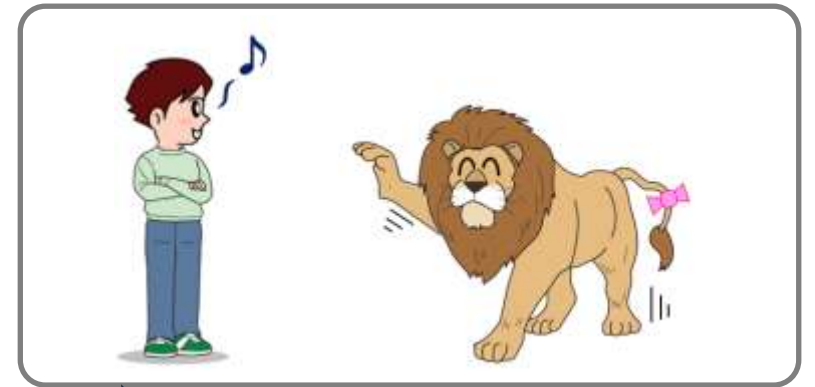
安全の考え方の20年周期での変化と 日本から提唱している協調安全（ロボットをライオンで示す）



Caution!

Safety

Safety + Well-being



Safety 0.0

Safety 1.0

Safety 2.0

欧州主導



日本提唱・主導



安全の考え方の20年周期での変化と 日本から提唱している協調安全（ロボットをライオンで示す）



1970

1980

1990

2000

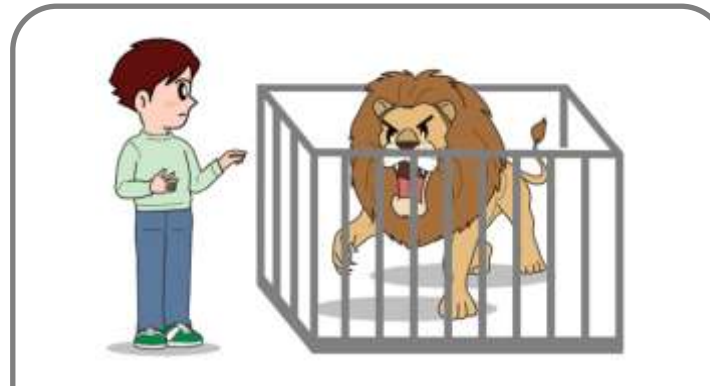
2010

2020

2030

Caution!

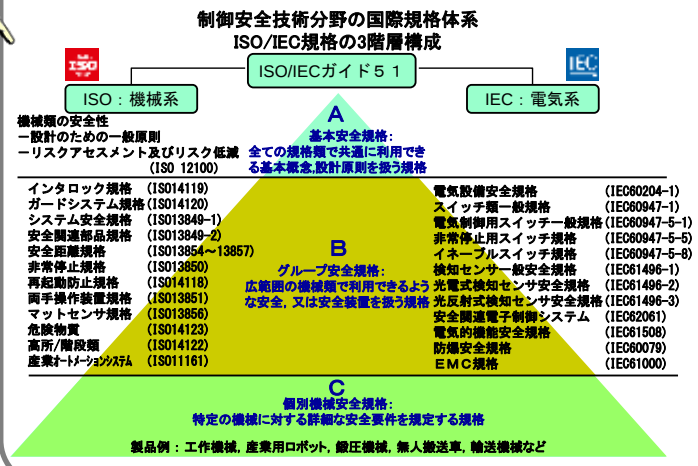
Safety



Safety 0.0

Safety 1.0

欧州標準の黒船来航



安全の考え方の20年周期での変化と 日本から提唱している協調安全（ロボットをライオンで示す）



1970

1980

1990

2000

2010

2020

2030

Caution!

Safety

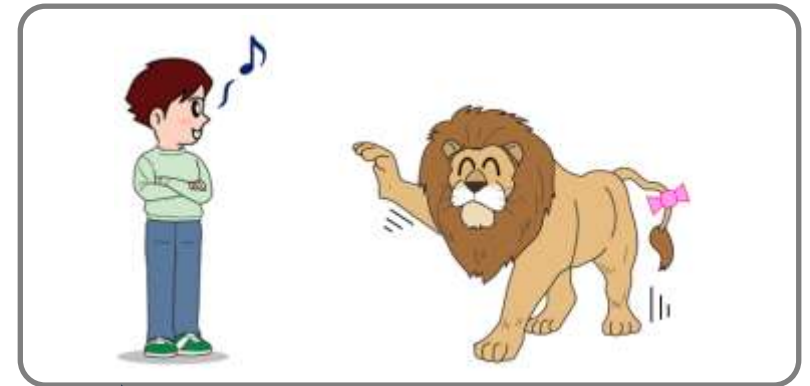
Safety + Well-being



Safety 0.0



Safety 1.0



Safety 2.0



- ・2020年に日本発IEC白書
"Safety in the Future"発行。
ホリスティックアプローチの重要性を訴求。
- ・IEC ACOSから日本提唱の国際規格
「IEC GUIDE 127」が日本主導で
2025年に発行予定。



安全の考え方の20年周期での変化と 日本から提唱している協調安全（ロボットをライオンで示す）



1970

1980

1990

2000

2010

2020

2030

Caution!

Safety

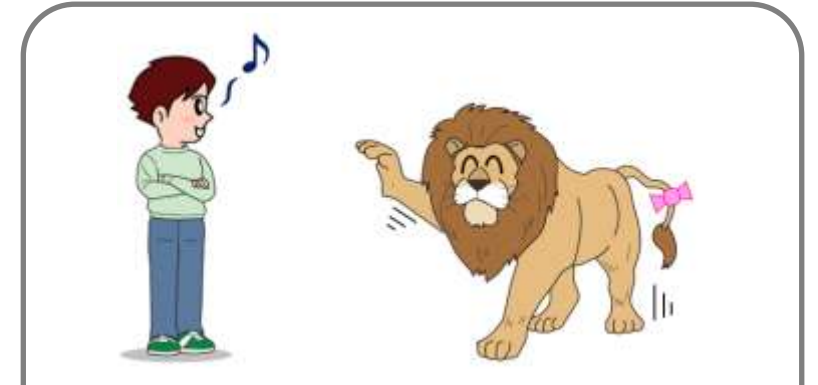
Safety + Well-being



Safety 0.0



Safety 1.0



Safety 2.0



経済産業受託事業： 協調安全の国際標準化



2019年度から2024年度まで6年間経済産業省の受託事業として
協調安全の国際標準化を実施、2025年度から3か年も提案中。



Hop:2019

協調安全の認知活動

- IEC White Paper 発行(2020年11月)
- ACOSでの協調安全ガイド開発着手(2020年3月ACOS会議でTF設置決定)
- ACOS TF on CS設置(IECでの協調安全の体制協議、ガイド開発)



Step:2022

協調安全に関する規格化活動開始

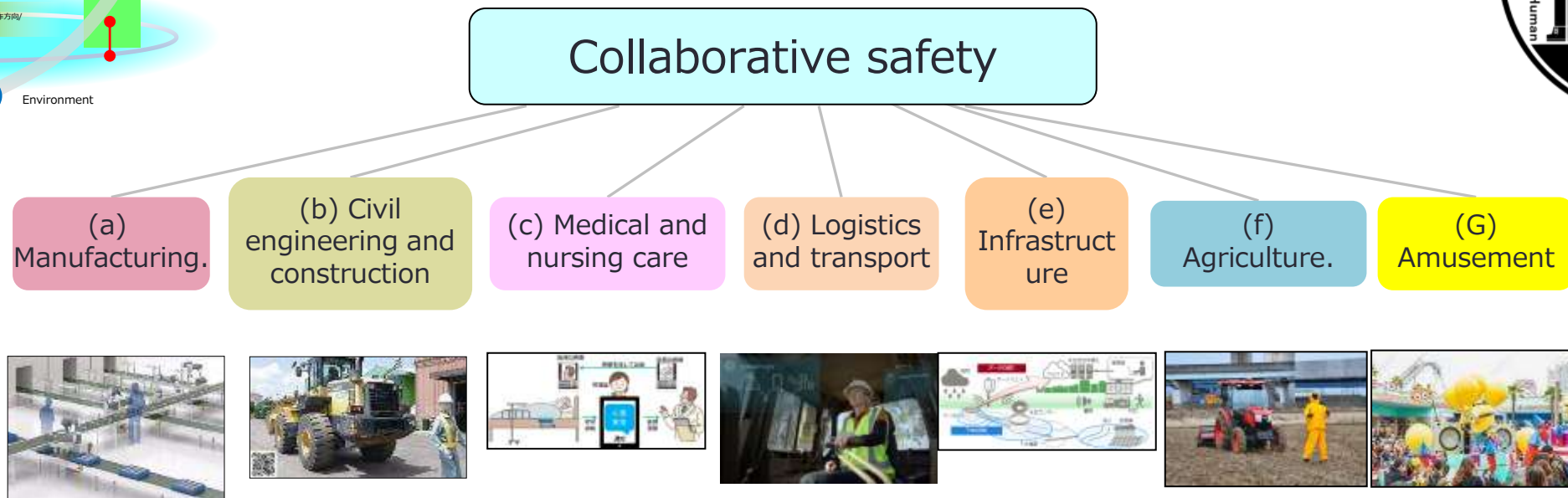
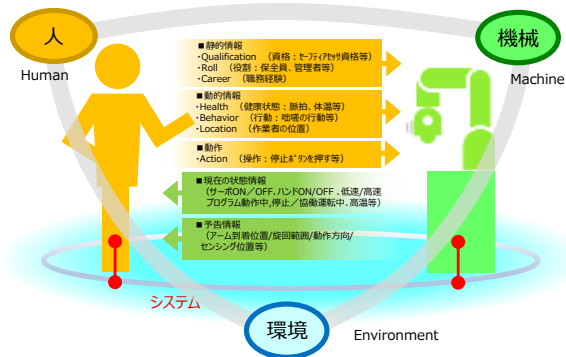
- 協調安全のガイド発行承認(2025年3月)
- SyC SMIに規格開発検討するアドホックグループ7設置
- 協調安全の水平的な規格(第一弾)NP提案(2025年2月)

Jump:2025

協調安全に関する規格のシリーズ化と社会実装の促進

- 協調安全(シリーズ規格の第2弾)NP提案、グループ規格の開発着手
- 協調安全の社会実装促進(例:ロボットシステムなど製造業)
- 協調安全の海外賛同者作りの為の活動推進

IEC ACOSで討議された 協調安全に関するIECガイドの必要性

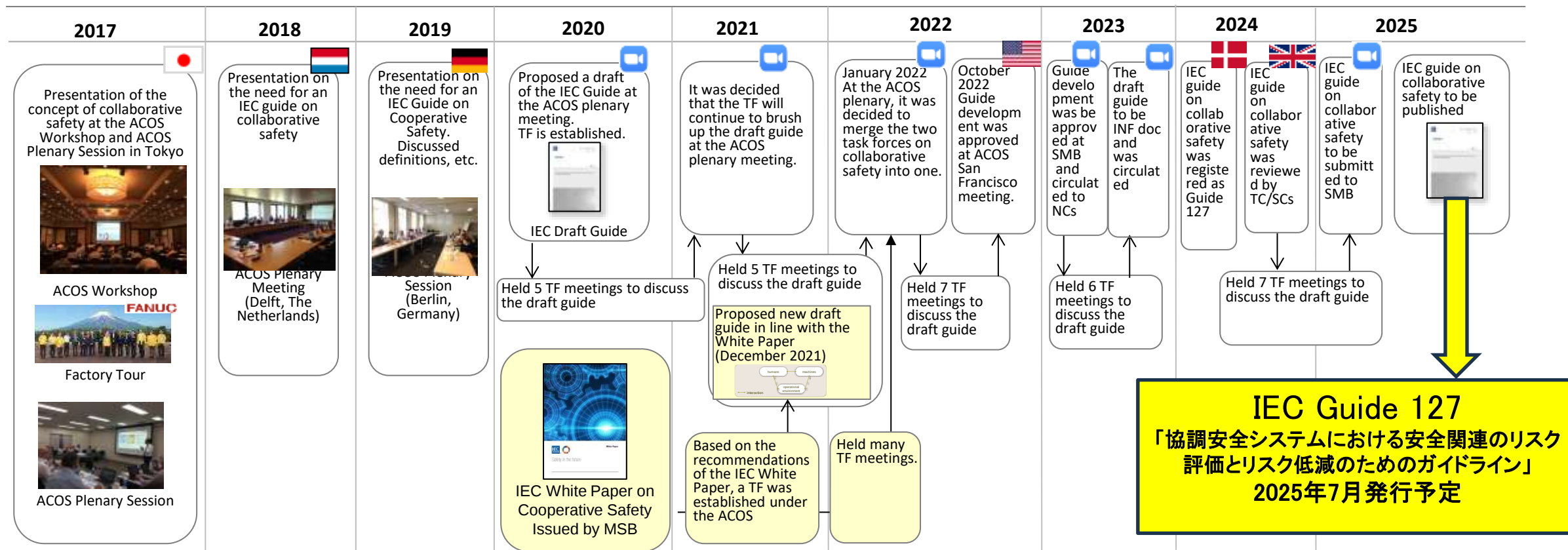


協調安全はさまざまな産業分野に適用できるため、分野共通の指針が必要



協調安全に関するIECガイドの開発を日本から提案

IEC ACOSでの 日本から提案の協調安全に関するIECガイド127の開発進捗状況



人と機械と環境が情報をやり取りすることで安全を構築

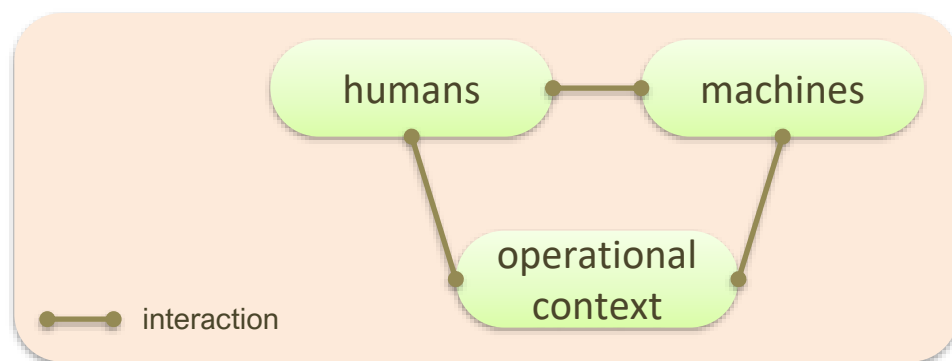


Figure 3: Tripartite system for safety



3ステップメソッドのStep 2 と 3、およびユーザによるリスク低減方策において有効

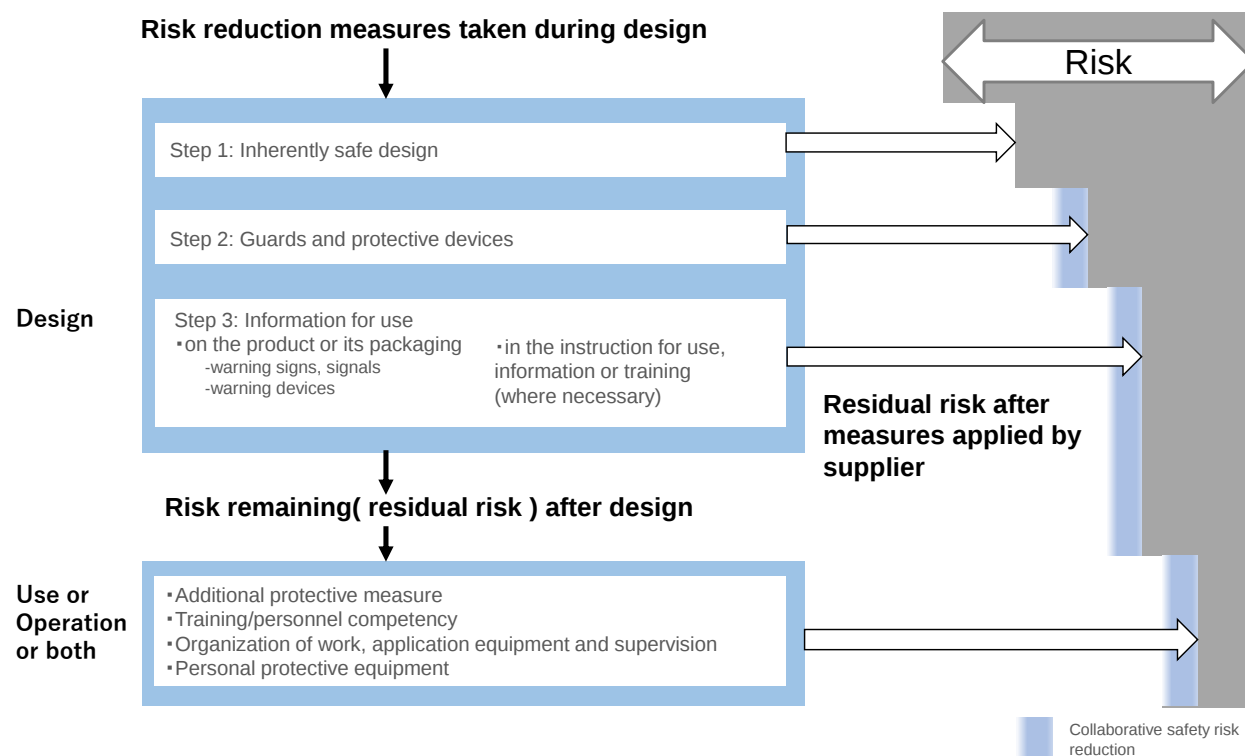


Figure 4 – Principle of risk reduction
(based on ISO/IEC GUIDE 51:2014, Figure 3)

協調安全の第一弾規格 SC65AにNP提案

NPとは

New Work Item Proposal(新業務項目提案) 具体的には規格開発業務の実施を提案

SC65Aとは

IECの技術委員会TC65(産業プロセス計測・制御)の下にある小委員会で、主に産業オートメーションに関連するシステムの一般的な要件に関する国際標準の策定を担当している。主な規格としてIEC61508(機能安全の基本規格)など

開発する規格タイトル

Human-machine collaborations Part 1: Coordination of multiple risk assessments

・スコープ

製造システムにおける人間と機械の共存及び／又は協働を実施するために、システムの異なる利害関係者がそれぞれ実施する複数のリスク評価を調整し、その結果を利害関係者間で交換するための用語及び基本原則を提供

背景

* リスクアセスメントにおける情報共有の重要性

・協調安全を実現するには、リスクアセスメントの段階で設計者、インテグレータ、使用者が協業し、リスク低減を効果的に進めるための仕組みが必要

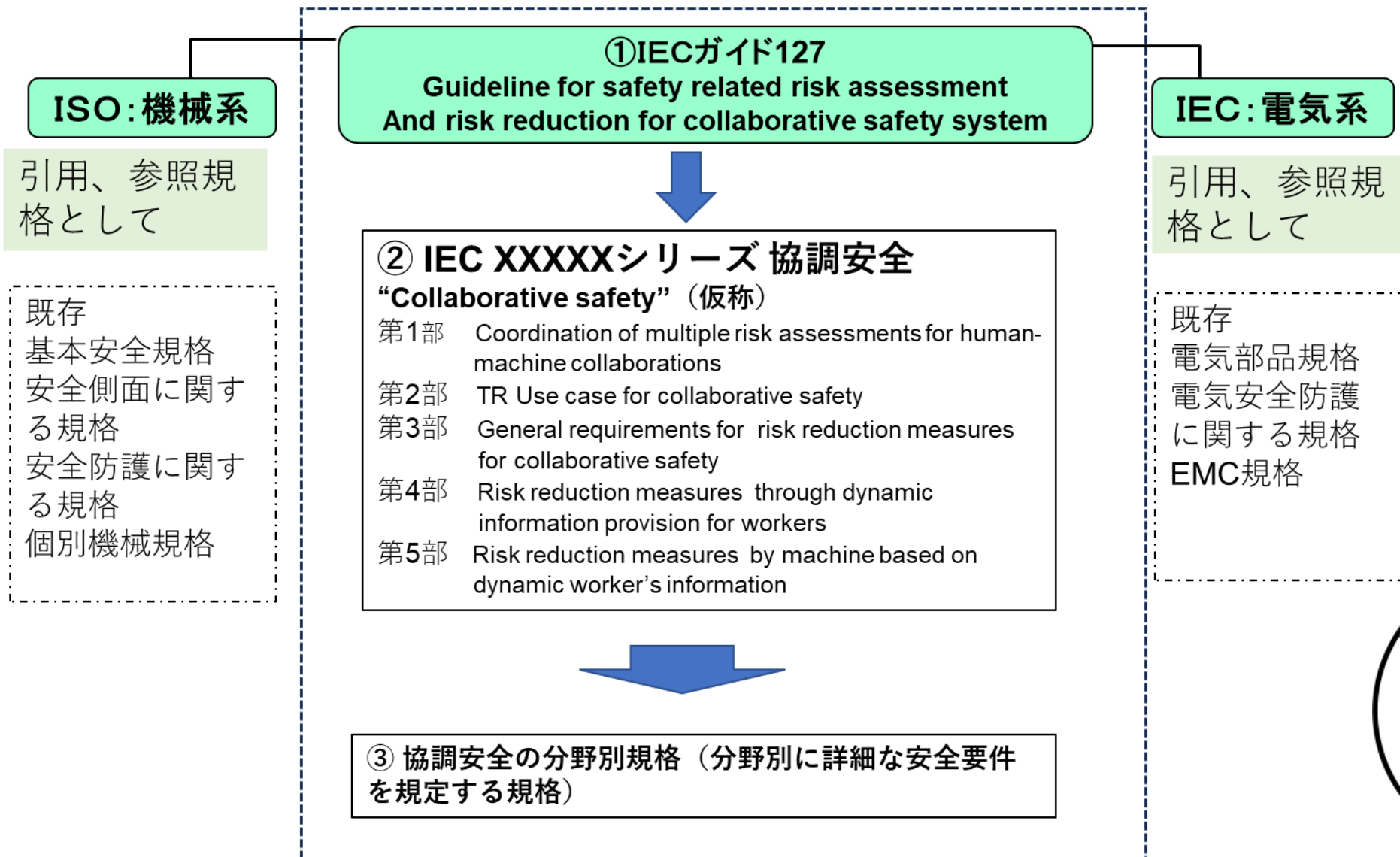
* 既存規格の課題

・JIS B9700(ISO12100):設計者のみを対象とした規定であり、使用者との協業には対応していない。

・ISO 11161(統合製造システムの安全)およびJIS C0511(IEC 61511、プロセス産業向け機能安全):システムの観点で設計者と使用者の関係を扱うが、特定の分野に特化しており、汎用性に欠ける

協調安全の規格構造体系案(将来的)

ガイドライン、規格開発



日本生まれのSA資格認証制度の発展とそのグローバル化の展望

日本から世界に通じる安全要員資格へ



経済産業省基準認証研究開発事業の下、国際規格に基づく安全技術を理解し、現場に機械安全の考え方を根付かせる人材育成の仕組みとして構築

セーフティアセッサ資格制度の創設

セーフティベーシックアセッサ機械安全運用分野(SBA-Mo)資格の創設

セーフティベーシックアセッサ(SBA)資格制度の創設

2014年4月、通達で求められる「設計技術者、生産技術管理者に対する機械安全教育」に対するSA資格の有効性が、基安発0415第1号で公知

厚生労働省による機械安全教育通達（基安発0415第3号）に対する、SA資格の有効性の公表

2015年10月からタイ人講師、タイ語テキストで講習会、資格認定試験を開始

タイ泰日技術協会（TPA）へのSA制度の展開

2019年5月 JIS B 9971「機械安全に関する要員の力量」が制定。SA資格制度の力量区分を元に、NECAが中心となって原案作成

JIS B 9971 の制定

セーフティニアアセッサ(SEA)資格の創設

2004

2009

2014

2015

2016

2017

2019

2020

2022

現在

(参考) NECAでの要員に関する基準認証事業

2004年(H16)～2006年(H18)
基準認証開発事業「産業オートメーションにおける安全の標準化」
WG4A：セーフティアセッサ制度の標準化

2014年(H26)～2016年(H28)
社会ニーズ（安全・安心）・国際幹事等輩出分野に係る国際標準化活動
(H28：戦略的国際標準化加速事業（政府戦略分野に係る国際標準開発活動）)
「機械安全に関する能力基準の定義に関する国際標準化」

2017年(H29)～2019年(H31)
工業標準化推進事業委託費（戦略的国際標準化加速事業：政府戦略分野に係る国際標準開発活動）
「機械安全に関する要員能力及びその認証手順の国際標準化」

IEC東京大会時にNECA&IEC/IECEE幹部会合



NECA-IEC 安全要員認証制度 MOU調印



NECA-IEC MOU (Memorandum of Understanding)調印式
2015年 11月26-27日 NECA 東京

2016年 IECEE / Policy and Strategy Committee (PSC) @SPRING, Singapore に参加

日本からの働きかけで IEC/IECEE に要員認証タスクフォース設立



IEC/IECEE でタスクフォースから常設のワーキンググループ(IECEE CMC WG34)に昇格

日本代表委員が主査(コンビーナ)



IEC/IECEE 要員認証制度の基本規定 (Rules of Procedure: RoP) の制定

SA制度/JIS B 9971を基に策定した機械安全分野の要員認証制度を再優先
機能安全、サイバーセキュリティ、協調安全等の要員認証も視野

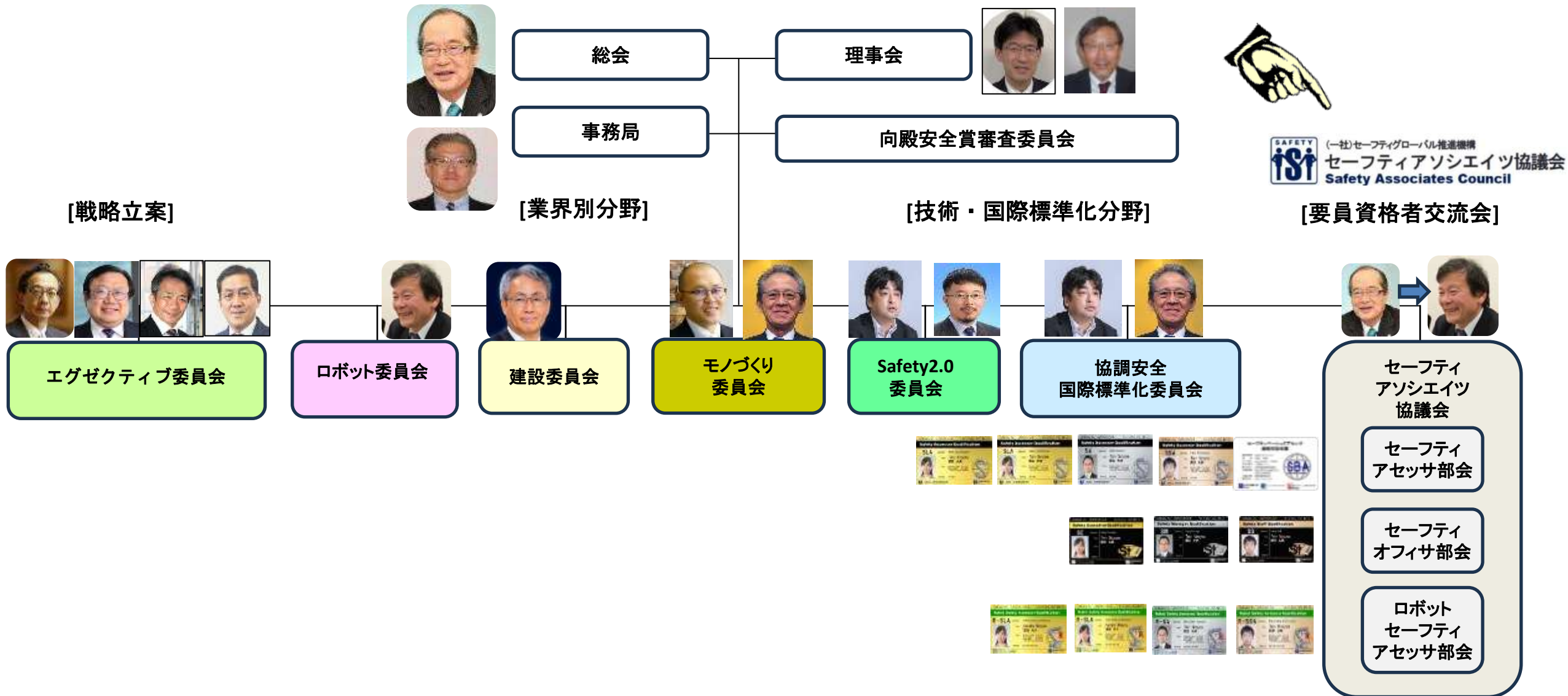


IEC/IECEE 要員認証制度運用開始の最終調整段階

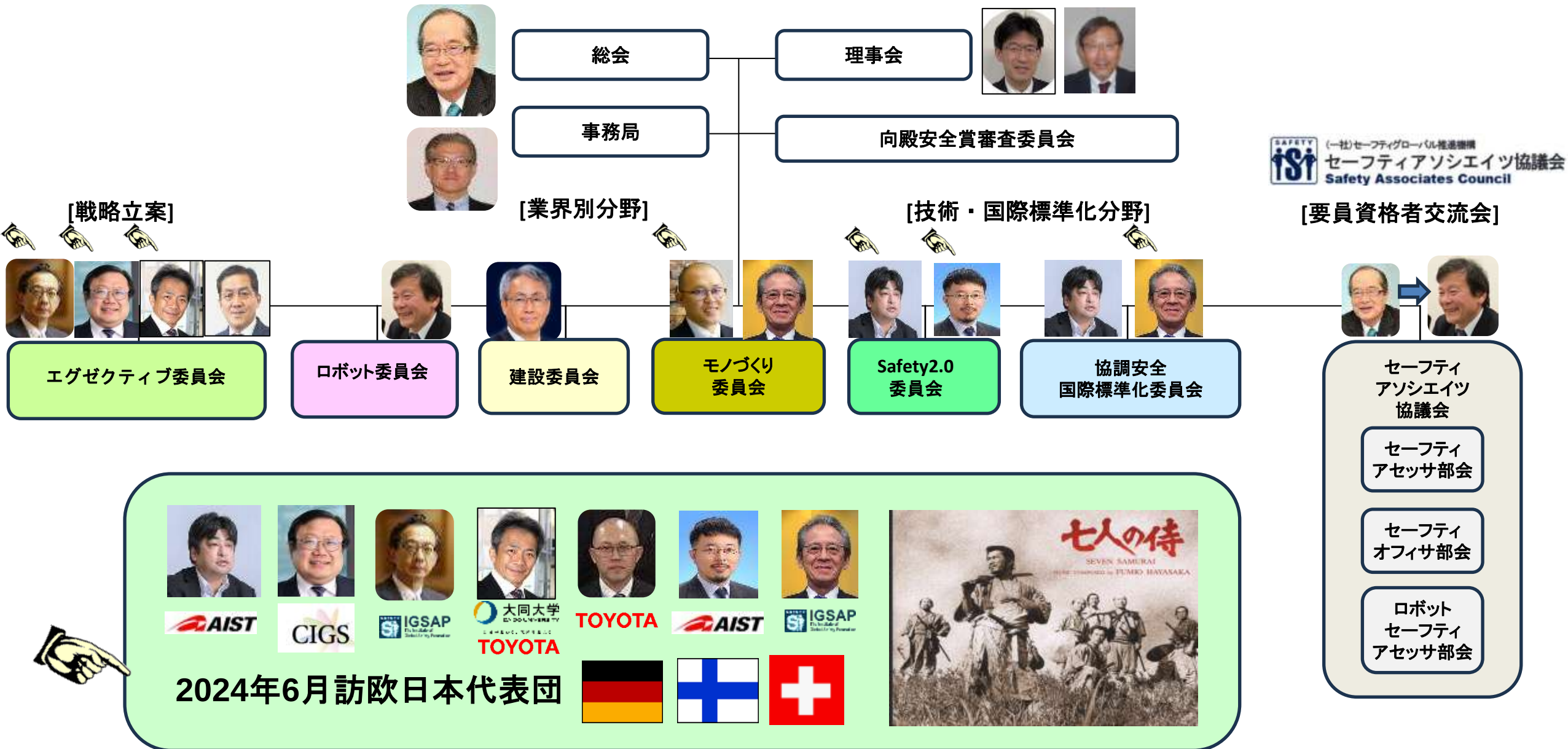


2025/2/12-13@米国でのWG34会議の様子

IGSAP委員会構成と2024年訪欧日本代表団



IGSAP委員会構成と2024年訪欧日本代表团



International Conference on the Safety of Industrial Automated Systems – SIAS 2024

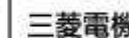
12-13, June 2024 Tampere, Finland



世界で唯一の安全技術の国際会議
6年ぶりにリアルで開催!!



SIAS会議での主たる日本企業等からの講演者の所属



SIAS 2024
12.-13.6.2024, TAMPERE FINLAND

SAFETY OF INDUSTRIAL AUTOMATED SYSTEMS – SIAS 2024
12. – 13. JUNE 2024, @ HOTEL ILVES, TAMPERE, FINLAND

Dear Colleagues

It is my pleasure to invite you to Tampere, Finland to participate in the Safety of Industrial Automated Systems – SIAS 2024. Conference. The conference was previously held in Montreal, Bore, Tampere, Chicago, Nancy and Tokyo. Tampere is a technology-oriented city and is home to, among others, Tampere University, research units of VTT Technical Research Centre of Finland, Forum for Intelligent Machines and various industrial facilities that apply automation and mobile machines. Technology has also been very important in the city's history. Electrical light lit up first time in Tampere already in 1882. First in Nordic countries and fifth in Europe. Electric lights also provided a new technology to improve the safety by replacing the gas light. Since then, several innovations have been developed and applied at Tampere. The conference venue, Hotel Ilves, is located in the Tampere city centre.

- Timo Mäkelä, Chair of the NOC

IMPORTANT DATES

- Call for papers August 2023
- Submission of abstracts December 2023
- Notification of acceptance March 2024
- Submission of full papers April 2024
- Early registration April 2024
- Conference 12.-13. June 2024, at Ilves hotel in Tampere, Finland

SCOPE

Automation has reduced the frequency of man-machine physical interactions; however, it has increased the complexity of human interventions. Therefore, it is not always evident that when the degree of automation increases, the number of accidents decreases. Accidents often occur during maintenance, troubleshooting and repairing and usually because the machine starts up unexpectedly. Better understanding about these conditions of man-machine interaction as well as development of methods, means and tools to control them needs to be considered. This conference takes a close look at research and development in industrial from safety viewpoint. The conference will be of interest to work systems and users, designers and occupational health & safety experts interested in the general theme of Safety of Industrial Automated Systems. The planned topics describe a non-exhaustive list of suggested themes. Other topics related to the scope will be considered. Titles, posters and oral presentations will be in English.

PAPER SUBMISSION

The abstracts written in English should contain title, authors, affiliations, address and email address of the corresponding author. Appropriate length is 100-1000 words without any figures. Submission of all papers and abstracts is handled via EasyChair. The Scientific Committee will select the presentations on the basis of the abstracts. The presenter will be asked to provide an article of max 6 pages to be published in the proceedings of the conference. The proceedings will carry an ISSN number and the copyrights are held by the Finnish Society of Automation. The proceedings will be available at Finnish Society of Automation website.

SCIENTIFIC COMMITTEE

- Tetsuroshi Sato, JIRCOS, Japan
- Jean-Christophe Billew, INRS, France
- Damien Buriel-Vienney, ROSTI, Canada
- Jaroslaw Jankowski, CIOP-PIB, Poland
- Nicholas Hall, HSE, UK
- Lion Winkler, INRS, France
- Thomas Böhmer, IFA - DGLR, Germany
- Yoshihiro Fujita, NECA, Japan
- Yoji Yamada, National Institute of Technology, Tokyo College, Japan
- Yuvik Chivviah, Polytechnique Montreal, Canada
- Timo Mäkelä, VTT Technical Research Centre of Finland
- Risto Tiihonen, VTT Technical Research Centre of Finland
- Jouni Kivimäki-Rahkonen, Tampere University, Finland
- Minna Lant, Tampere University, Finland

NATIONAL PROGRAMME COMMITTEE

- Timo Mäkelä, VTT Technical Research Centre of Finland
- Risto Tiihonen, VTT Technical Research Centre of Finland
- Marko Vuorimäki, Finnish Society of Automation, Finland
- Anu Räsänen-Saparnas, Finnish Society of Automation, Finland
- Jouni Kivimäki-Rahkonen, Tampere University, Finland
- Jyrki Laaksoharju, Tampere University, The Robotics Society in Finland
- Ossi Raatik, Tampere University of Applied Sciences, Finland
- Jukka-Pekka Räsänen, Helsinki, Finland
- Aatto Siira, IFMA, Finland

PROPOSED TOPICS

- Safety of machinery**
 - Safety concepts and principles
 - Design rules and strategy
 - Engineering-economics multidisciplinary in safety research
 - Collaboration with autonomous machines
- Risk assessment**
 - Hazard identification, hidden: experience, mitigation
 - Methodologies
- Practical applications/experiences**
 - Accident analysis and investigation
 - Economics of safety
- Human and organizational factors**
 - Organizational design, management and leadership
 - Socio-technical systems approach to automation safety
 - Safety culture
- Protective devices and systems**
 - Safety of autonomous machines, robots and cobots
 - Intelligent personal protective equipment
- Control system designs and evaluations**
 - AI and safety
 - Digital twins
 - Cybersecurity
 - XII technologies improving safety
- Standardization and regulations**
 - Standardization in the safety of machinery
 - Effects of new EU regulations
- Functional safety**
 - SILs and PLs of intelligent devices
 - Experience of new functional safety standards



VTT Tampere University

WWW.AUTOMAATIOSEURA.FI/SIAS2024



International Conference on the Safety of Industrial Automated Systems(SIAS)

SIAS Hosting Countries: 1999 - 2026

	1999	2001	2003	2005	2007	2010	2012	2015	2018	2021	2024	2026
Venue, Country	Montreal, Canada	Bonn, Germany	Nancy, France	Chicago, USA	Tokyo, Japan	Tampere, Finland	Montreal, Canada	Königswinter, Germany	Nancy, France	Online Japan	Tampere, Finland	Osaka, Japan
												

Held Virtually

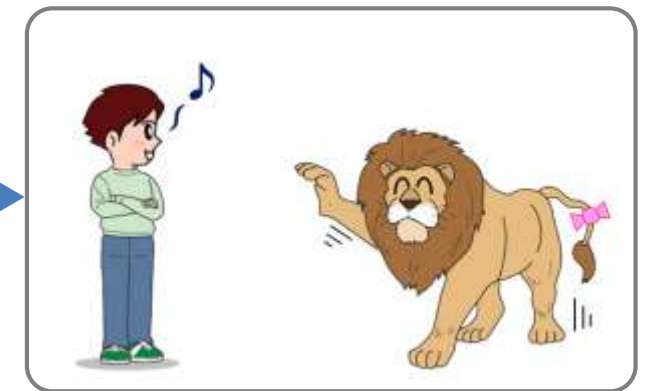


Safety



Safety 1.0

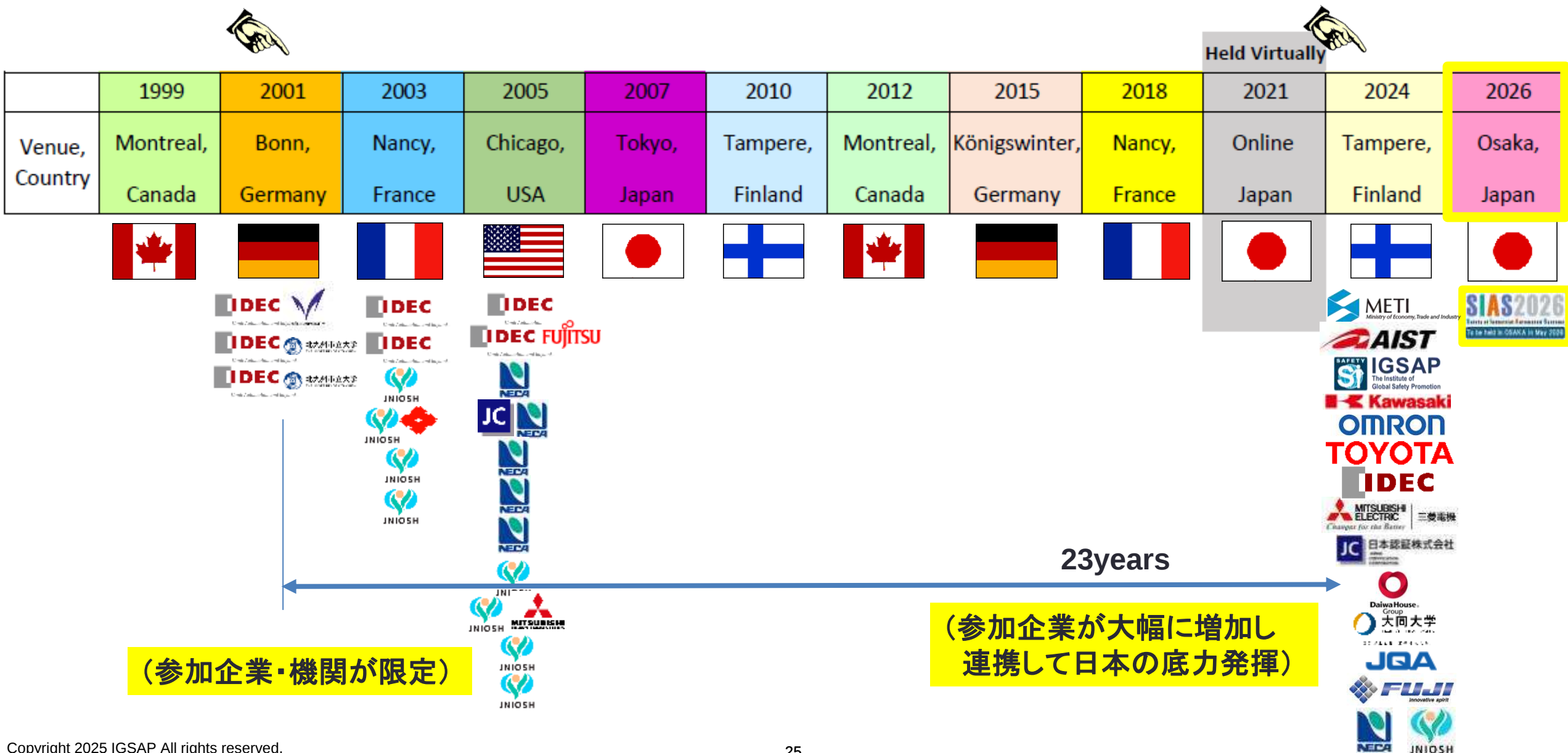
Safety + Well-being



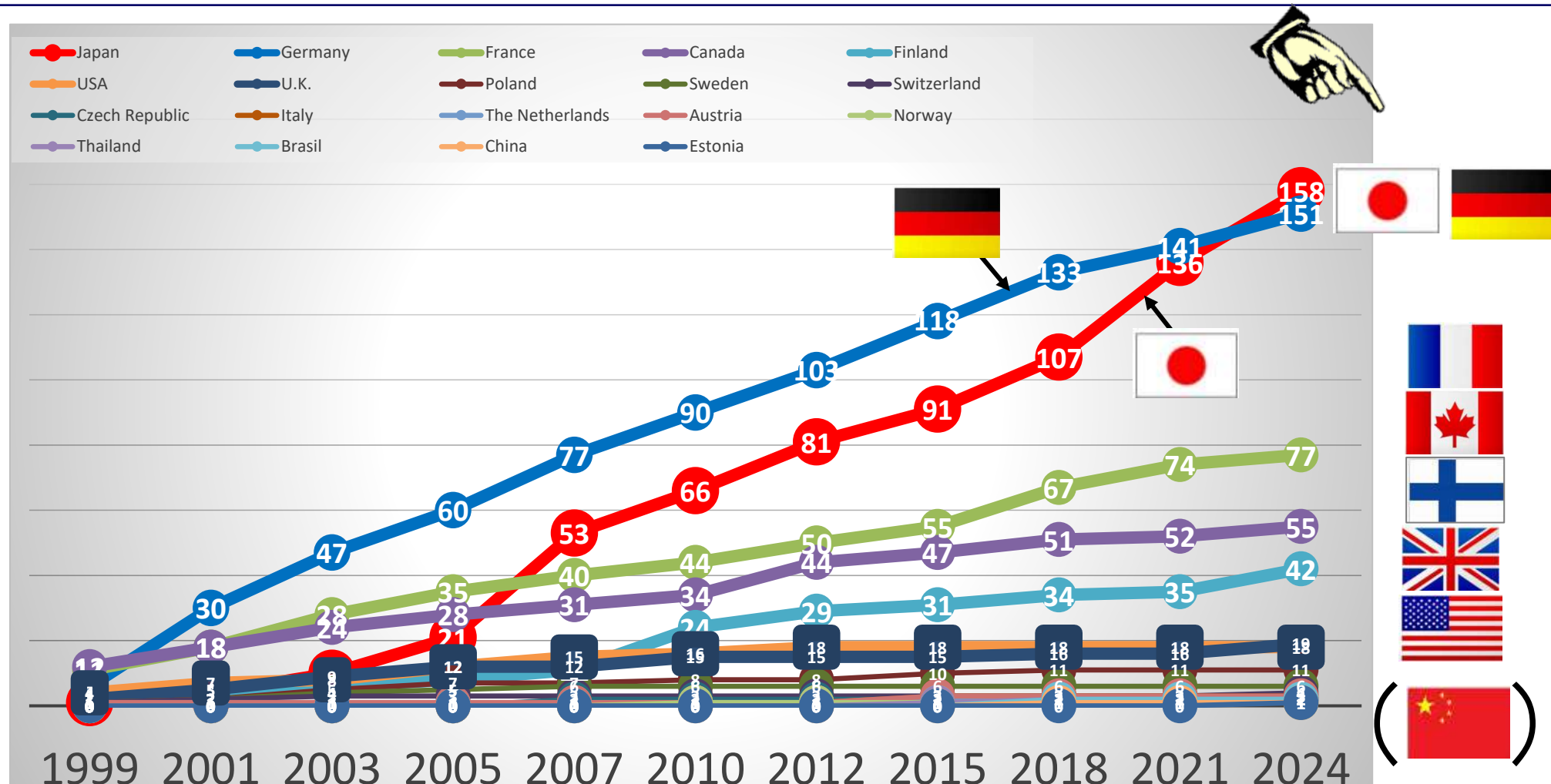
Safety 2.0

International Conference on the Safety of Industrial Automated Systems(SIAS)

SIAS Hosting Countries: 1999 - 2026



SIAS安全国際会議での各国別累計発表件数推移



2000年代のドイツリードの安全技術力に、2024年には日本が肩を並べる状況を実現、ドイツと連携して世界をリードできる兆候が見える所へきた。

G7

(Group of Seven)



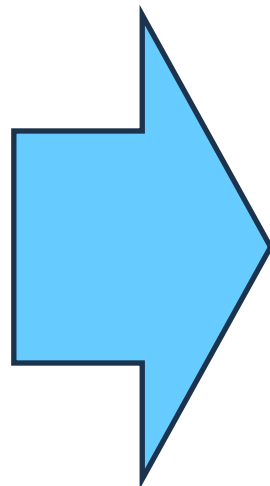
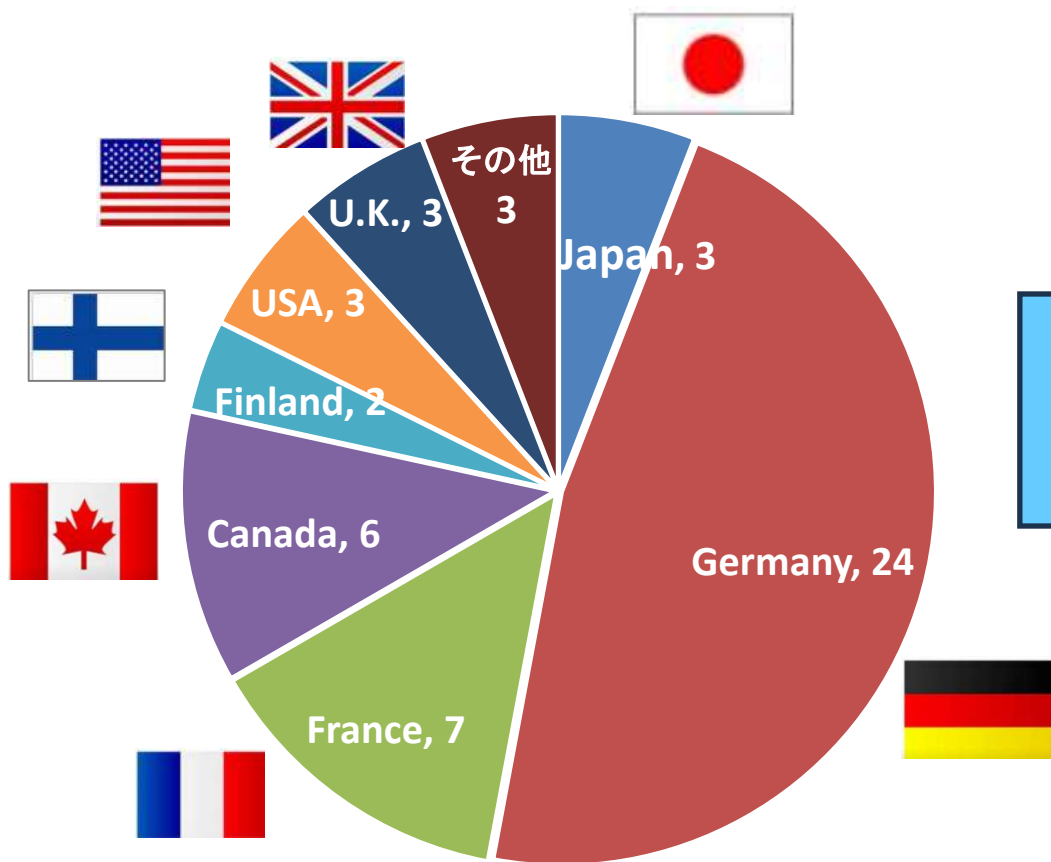
S7

(Safety of Seven)

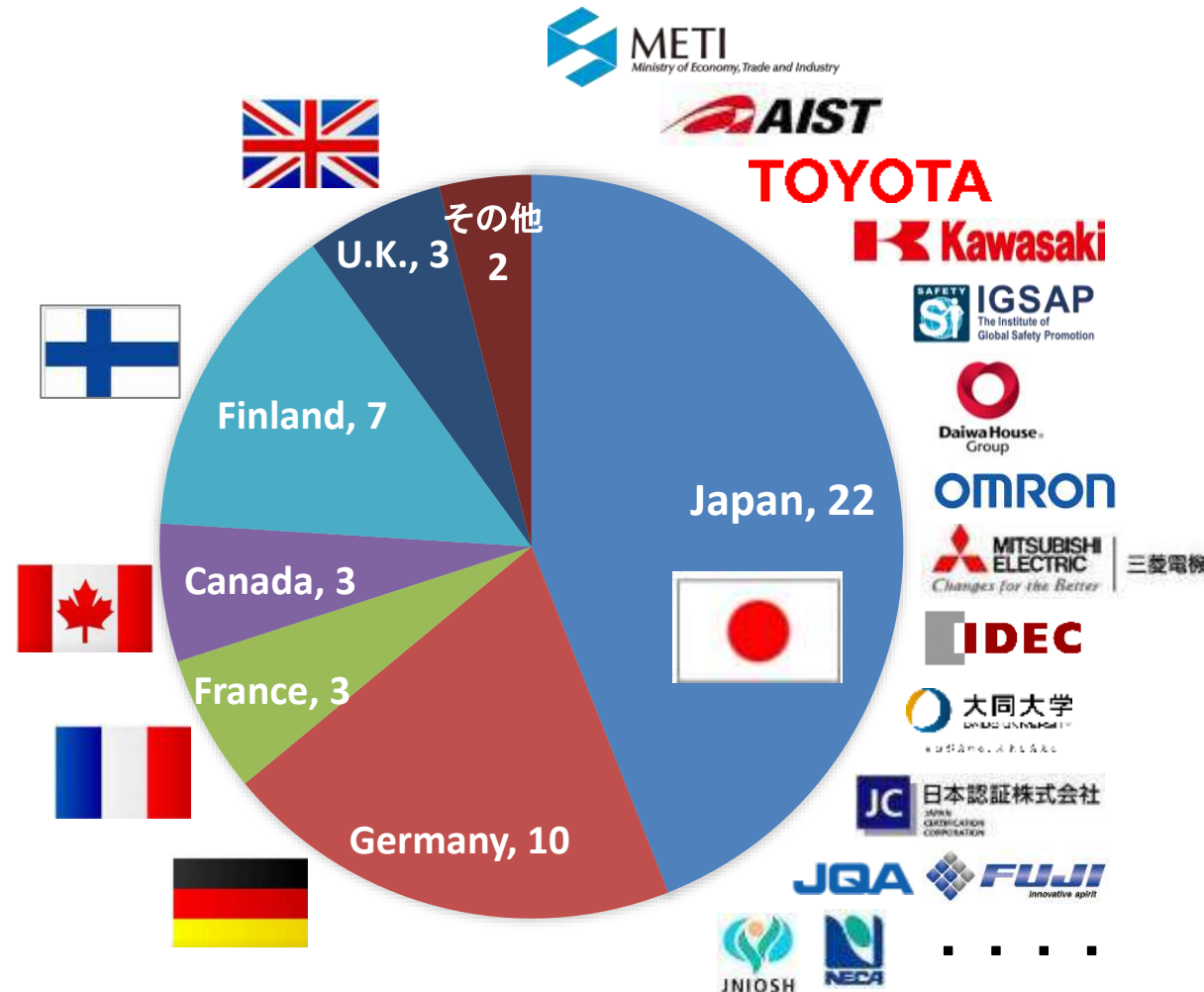


SIAS発表件数国別比較 2001年(Bonn) vs 2024年(Tampere)

2001年
Bonn, Germany



2024年
TAMPERE, FINLAND





2026年SIAS日本開催誘致成功!!

テクノロジー・インバウンド&インダストリー・インバウンドの推進

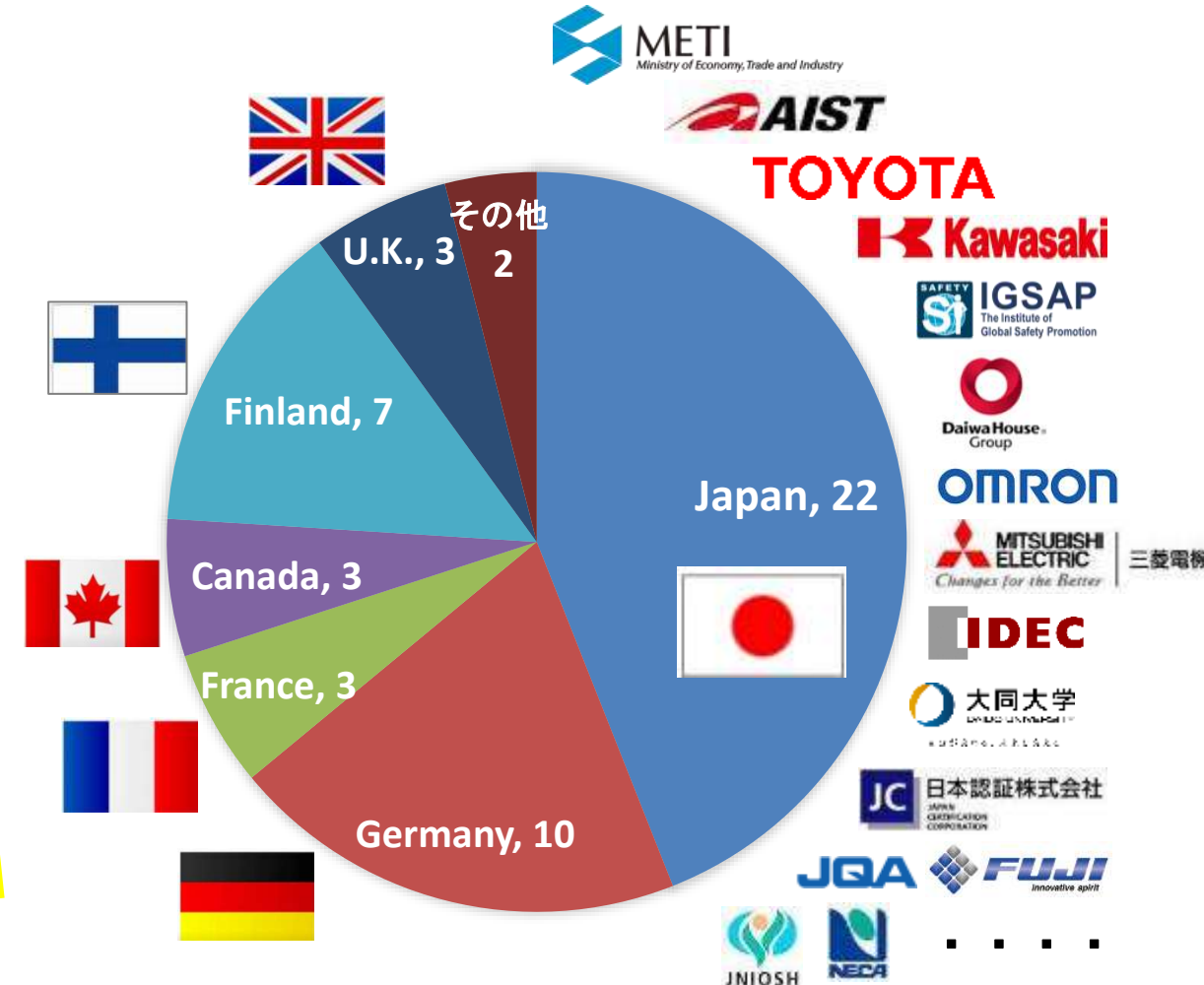
2026年12月日本開催誘致成功!!
→国際標準化や産業創成に有利!!



テクノロジー・インバウンドの推進
(日本の産官学協力の成果)

2024年

TAMPERE, FINLAND





ウェルビーイングの重要性

VISION ZERO TOKYO DECLARATION

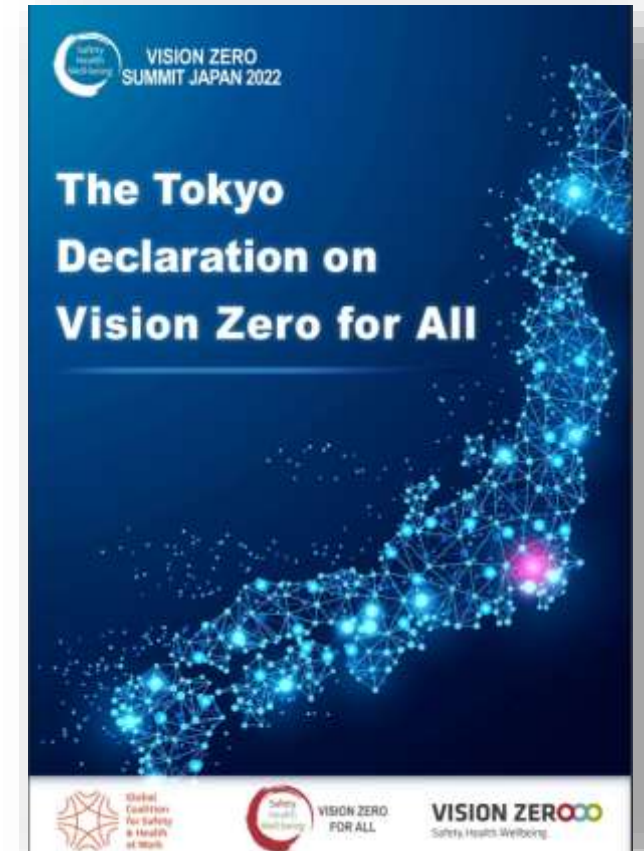
<https://japan.visionzerosummits.com/japan-2022/tokyo-declaration/>



VISION ZERO SUMMIT JAPAN 2022
DAY1, 8:15 AM (CEST), 15:15- (JST), 11-May, 2022
Opening Statement and Keynotes

									
Masao Mukaidono	Shigeyuki Goto	Tedros Adhanom Ghebreyesus	Joachim Breuer	Stefan Olsson	Vanessa Harwood-Whitcher	Kazuhiro Ishimura	Manfred Schoch	Kazuyuki Inoue	Tommi Alanko
Chair, JOC	Minister, MHLW Japan	Director-General, WHO	President, ISSA	Director DG Employment, EC	CEO, IOSH	President, AIST	Chair, Works Council, BMW Group	President and Representative Director, Shimizu	Leader, Global Coalition Task Group

Logos: SAFETY SIGAP, 厚生労働省, World Health Organization, issa, European Commission, IOSH, AIST, BMW, SHIMZ, Global Coalition for Safety & Health at Work, VISION ZERO FOR ALL, VISION ZERO Safety, Health, Well-being



VISION ZERO SUMMIT JAPAN 2022
The Tokyo Declaration on Vision Zero for All

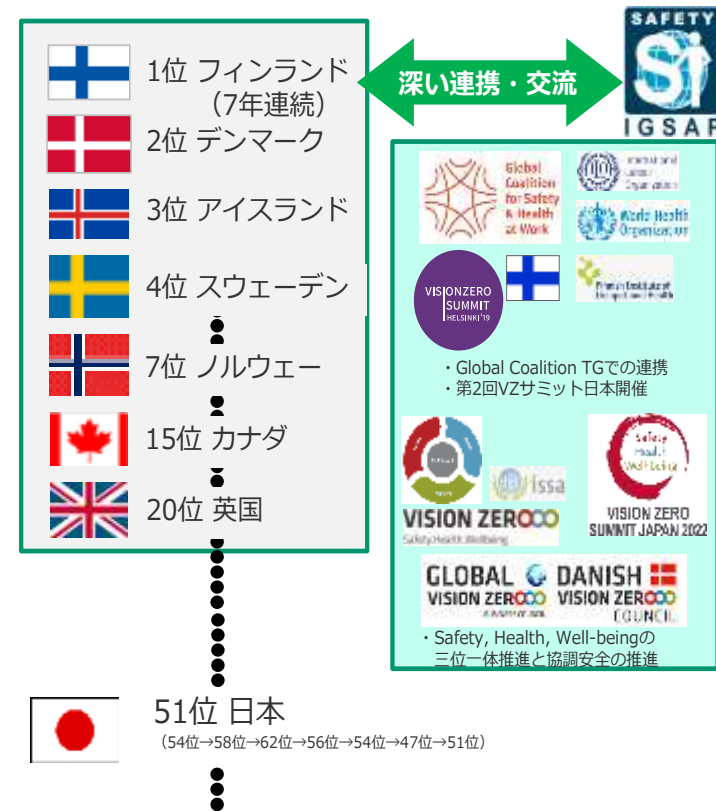
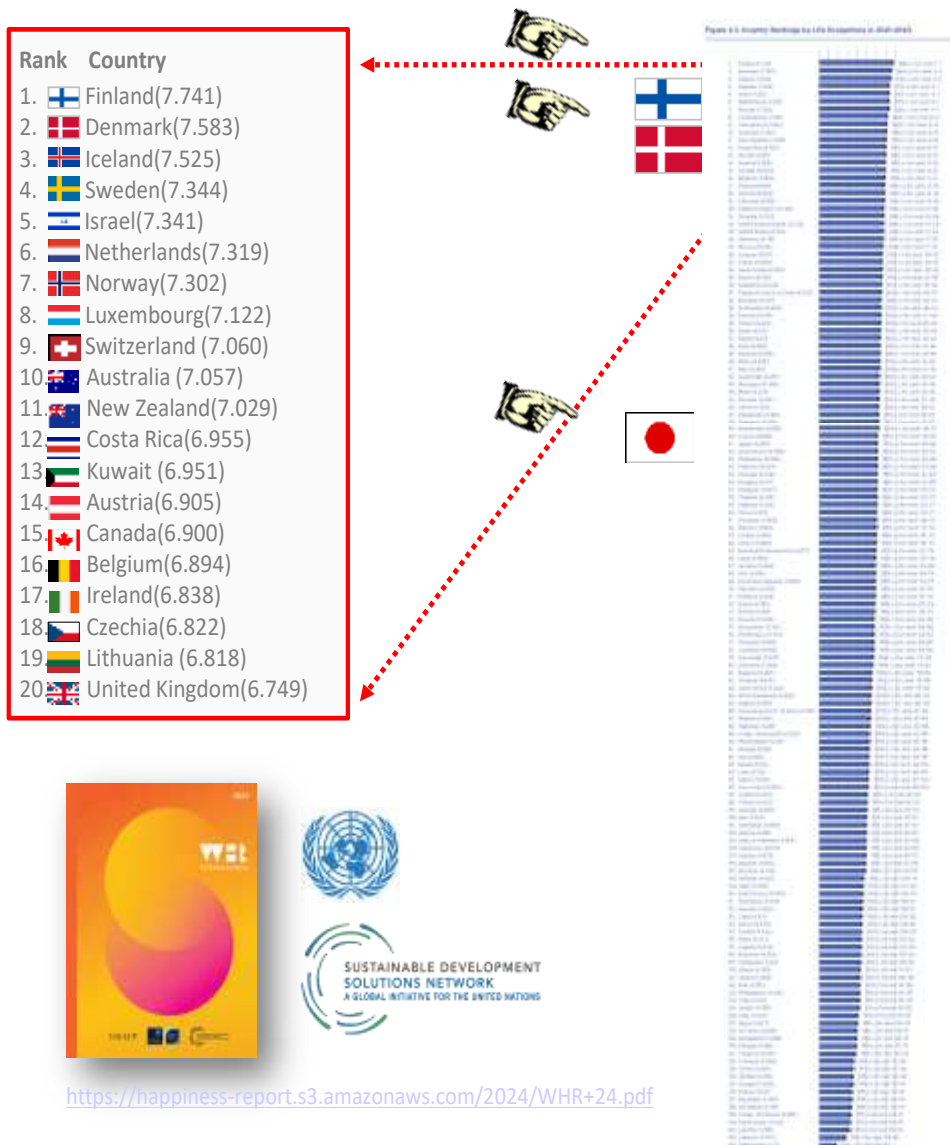
Logos: SAFETY SIGAP, 厚生労働省, World Health Organization, issa, European Commission, IOSH, AIST, BMW, SHIMZ, Global Coalition for Safety & Health at Work, VISION ZERO FOR ALL, VISION ZERO Safety, Health, Well-being

With one click , you can explore over 200 lectures delivered by top executives, leaders, and safety experts from around the world.

Vision Zero Summit Japan 2022 OFFICIAL BOOKLET
[VZSJ2022 OFFICIAL BOOKLET\(JPN\)](#)
[VZSJ2022 OFFICIAL BOOKLET\(ENG\)](#)



世界幸福度(ウェルビーイング)ランキング2024年 (World Happiness Report 2024)



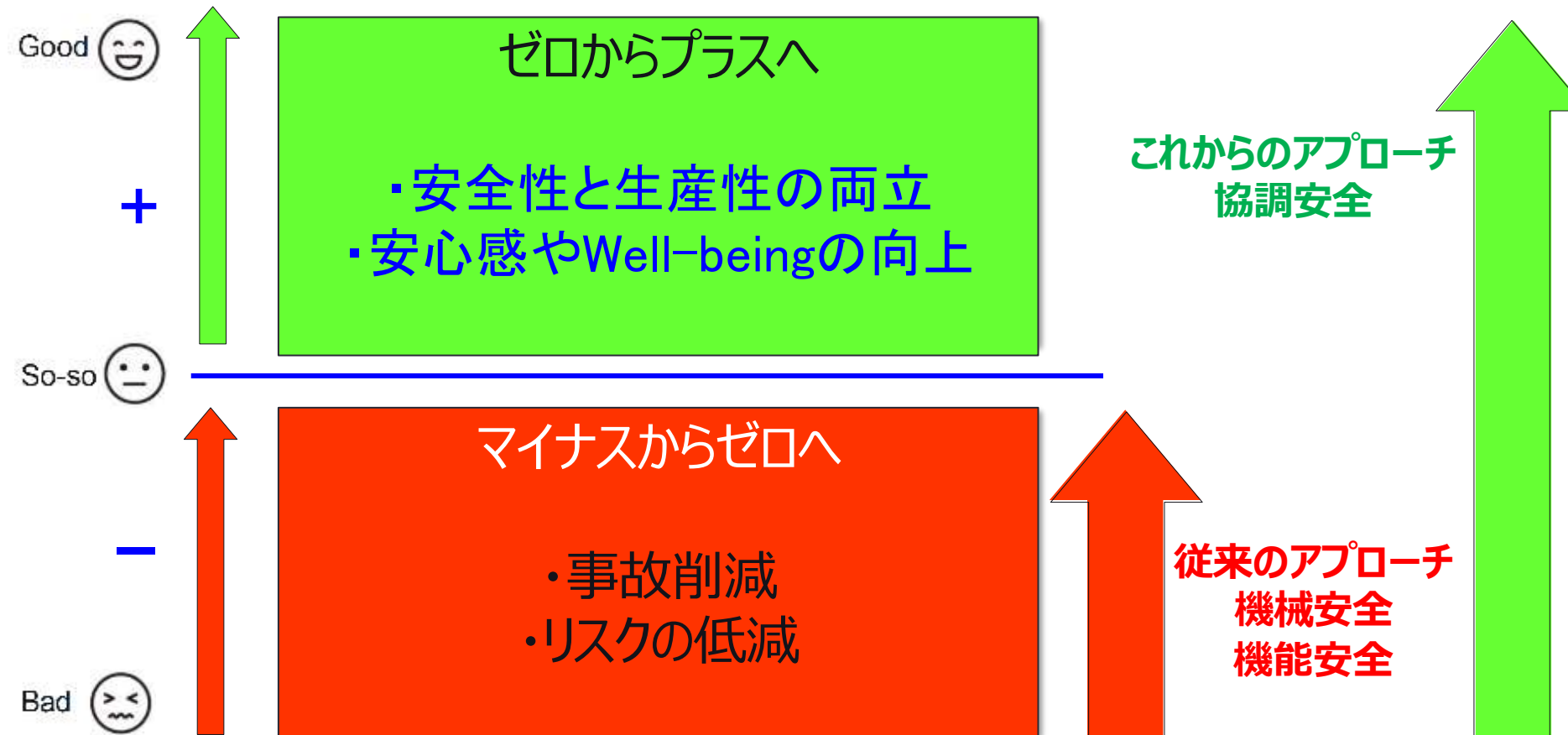
「国際幸福デー」の3月20日、国連の持続可能な開発ソリューションネットワーク (SDSN) は 2024年版の「世界幸福度報告書」を発行し、世界幸福度ランキングを発表した。IGSAPがビジョンゼロ推進に連携する国々は軒並み上位にランキング：
フィンランド (7年連続1位)、デンマーク (2位) スウェーデン (4位) ノルウェー (7位)
 カナダ、英国、、、日本は2018年:54位、2019年:58位、2020年:62位、2021年56位、2022年54位、2023年47位、**2024年 51位(143ヶ国中)**。

IGSAPが世界と共に目指すグローバル社会で進められているコンセプト 「ゼロからプラスへ」を指向する安全のその先 ウェルビーイングへ



IGSAP向殿会長が提唱する新しい労働安全の概念

従来の労働安全衛生は、ケガや事故、精神的なストレスによる不調、心労、支障などにつながるリスクを払拭するといった面を対象として、主としてマイナスからゼロにする活動でありましたが、新概念ではマイナスからゼロにする考え方、活動をしっかりと実施したうえで、ゼロからプラスに向けて、働く人が前向きに、いきがい、やりがいを持って仕事ができる安全方策も実施するということです。



IGSAPモノづくり委員会

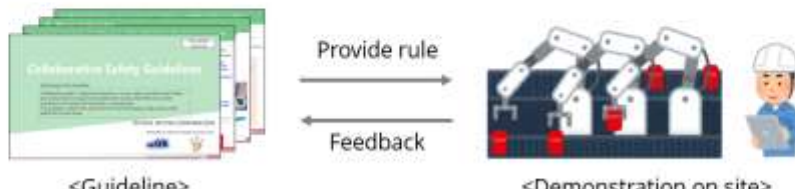
トヨタ自動車が解決案の1つとして着目した協調安全を、多くの企業での実証一般化により、従来の機械安全(Safety 1.0)と同等以上の安全性を確保しながら、生産性を両立し、ウェルビーイング（安心感・働きがい）の向上も目指す。



12.-13.6.2024, TAMPERE FINLAND

“Collaborative Safety Guideline” within Toyota Group

- Developed the concrete methodology of risk assessment and risk reduction for collaborative safety
- Issued “Collaborative Safety Guideline” as a rule for demonstration within Toyota Group
- Verifying the effect of risk reduction measures for collaborative safety and validity of the rule

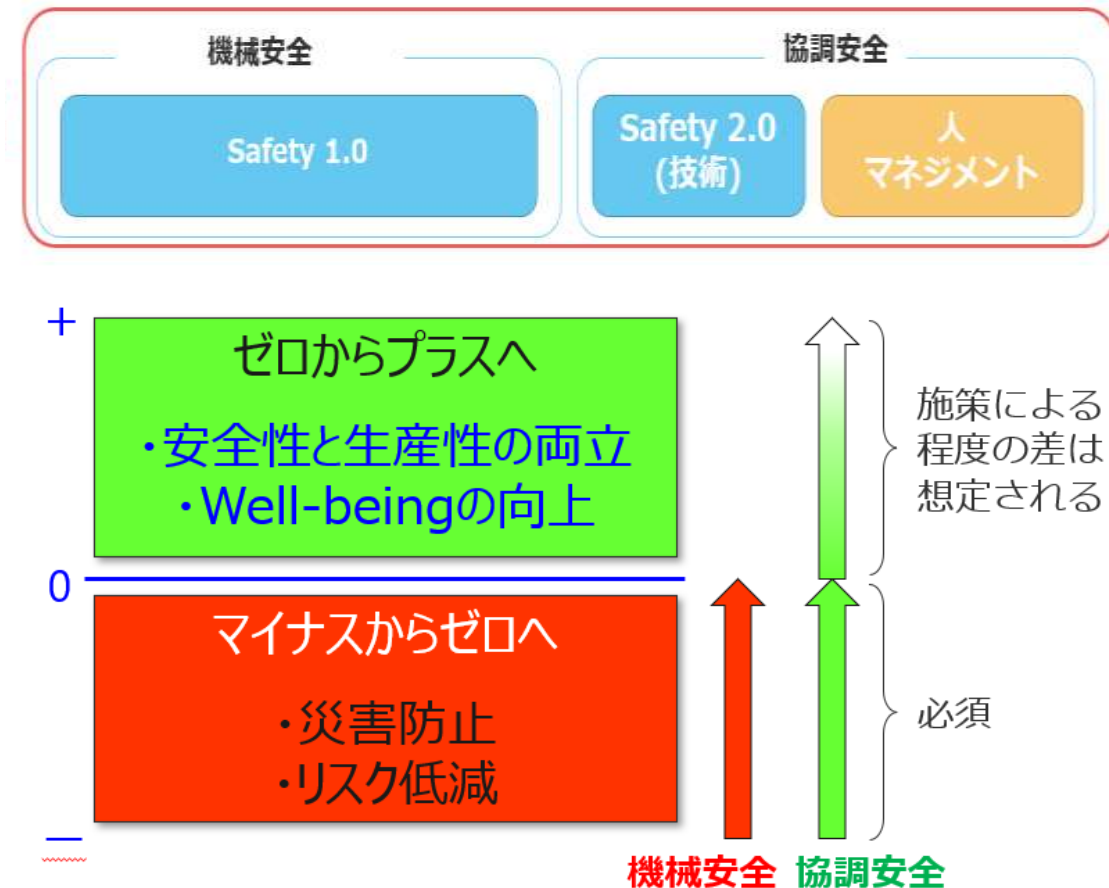


<Guideline> Provide rule <Demonstration on site>
Feedback

VTT Tampere University FINNISH SOCIETY OF AUTOMATION

トヨタグループ内で協調安全実証のため
協調安全ガイドラインを策定

TOYOTA



国内外での協調安全
の標準化と社会変革

国内外モノづくり現場での
協調安全の実証と具体的実装推進

協調安全
国際標準化
JIS/ISO/IEC

国内外標準化



モノづくり委員会
協調安全ガイドライン
の世界普及検討

一般解化

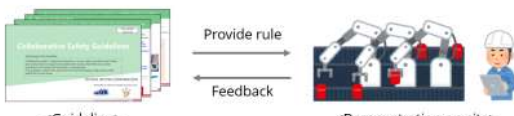
TOYOTA

トヨタグループ内での
協調安全の実証

SIAS 2024 12-13.6.2024, TAMPERE FINLAND

“Collaborative Safety Guideline” within Toyota Group

- Developed the concrete methodology of risk assessment and risk reduction for collaborative safety
- Issued “Collaborative Safety Guideline” as a rule for demonstration within Toyota Group
- Verifying the effect of risk reduction measures for collaborative safety and validity of the rule



<Guideline> → Provide rule → <Demonstration on site> → Feedback → <Guideline>

VTT Tampere University FINNISH SOCIETY OF AUTOMATION



十日独連携

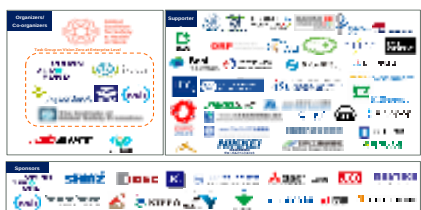
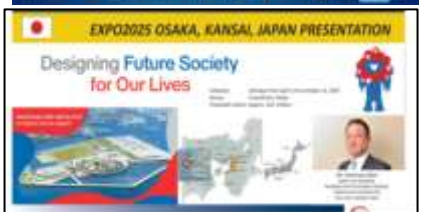


日独が連携して推進すれば
国際標準化も産業創成も可能

トヨタの協調安全ガイドライン

From Vision Zero Summit Japan 2022 to EXPO2025 — Vision Zero across the Globe —

未来への贈り物 80億人の安全・健康・ウェルビーイング



Vision Zero Summit Japan
May, 2022

Global Network

ILO, WHO, EU, DGUV, IOSH, etc.
Global companies around the world

Growing needs for improved well-being

Work style reforms accelerated by Covid-19
DX, EX, Sophistication of technology
Mental trouble increasing
Climate change
Well-being technology.

From OSH of Experts to SHW of Global Citizens

Holistic approach
Human resource development
Education for children

“Designing Future Society for Our Lives”

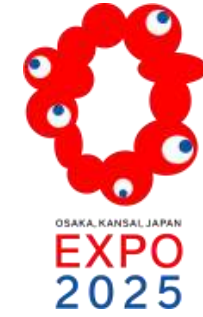


A great opportunity
to disseminate the Vision Zero concept of
Safety, Health, and Well-being
internationally,
in line with the theme of EXPO2025
“Designing Future Society for Our Lives”



Vision Zero Across the globe





Messe
Düsseldorf

Meeting on GISHW on June 10, 2024 at Messe Dusseldorf, Germany



MoU signing ceremony aimed at achieving success of GISHW (@Messe Dusseldorf, June 10, 2024)



ILO 事務局長 (Director-General) Gilbert F. Houngbo ジルベール・F・ウングボ氏 との会談(2024年6月17日)



International
Labour
Organization



June 17, 2024 @ILO Headquarters, Geneva

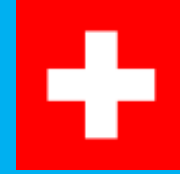
© Violaine Martin / ILO



WHO訪問

Dr. Maria Neira, Dr. Ivan Ivanovと会合

2024.06.18 Geneva



「安全・健康・ウェルビーイング」デイズ・プログラム

2025年7月16日～19日に下記7つのイベント開催
(2025年7月15日企業・現場見学会開催)

- | | |
|--|---------------|
| ➤ SUMMIT | EXPO内 |
| ➤ WORLD ASSEMBLY | EXPO内+INTEX大阪 |
| ➤ INTERNATIONAL SYMPOSIUM | EXPO内+INTEX大阪 |
| ➤ FESTIVAL | EXPO内 |
| ➤ ILO YOUTH CONGRESS | EXPO内 |
| ➤ EXHIBITION / THEME PARK | EXPO内+INTEX大阪 |
| ➤ INTERNATIONAL
STANDARDIZATION FORUM | EXPO内 |



EXPO HALL (MAX 2,000名)

シンポジウム・国際会議・展示会でこれからの
安全やウェルビーイングを世界の専門家と共に討議・推進する場

<https://gishw.com>

International Standardization Forum for Safety, Health, and Well-being



ORGANISERS:

JSA

DATE:

16 July 2025

TIME:

13:00 - 17:00

VENUE:

EXPO Salon



Chair

Hiroshi Asahi
President
Japanese Standards Association (JSA)



The **International Standardization Forum for Safety, Health, and Well-being** marks a groundbreaking initiative to address the evolving role of advanced technologies in the occupational safety and health (OSH) field. With rapid advancements in robotics, artificial intelligence (AI), and other transformative technologies, it is essential to harness these innovations responsibly. This Forum will explore how international standardization can support the effective integration of these technologies into OSH management systems and align with global initiatives such as Vision Zero.



Dr. Sung Hwan Cho, ISO President



Mr. Jo Cops, IEC President



<https://gishw.com/standardisation-programme/>

朝日 弘 様 /GISHW Executive Committee
(日本規格協会 (JSA) 理事長)



<https://youtu.be/0Yk0fKzLM2o?si=Wvp9ajxy11j-AiNZ>



174年の万博の歴史上初めて「安全・健康・ウェルビーイング」のイベントが開催されます。
国際標準化を目指す仲間づくりの場ですので、7月16日～19日のイベントへ
是非多くの皆様一緒にご参加下さい！詳細は以下をご覧ください。
[GISHW - Global Initiative for Safety, Health & Well-being](#)

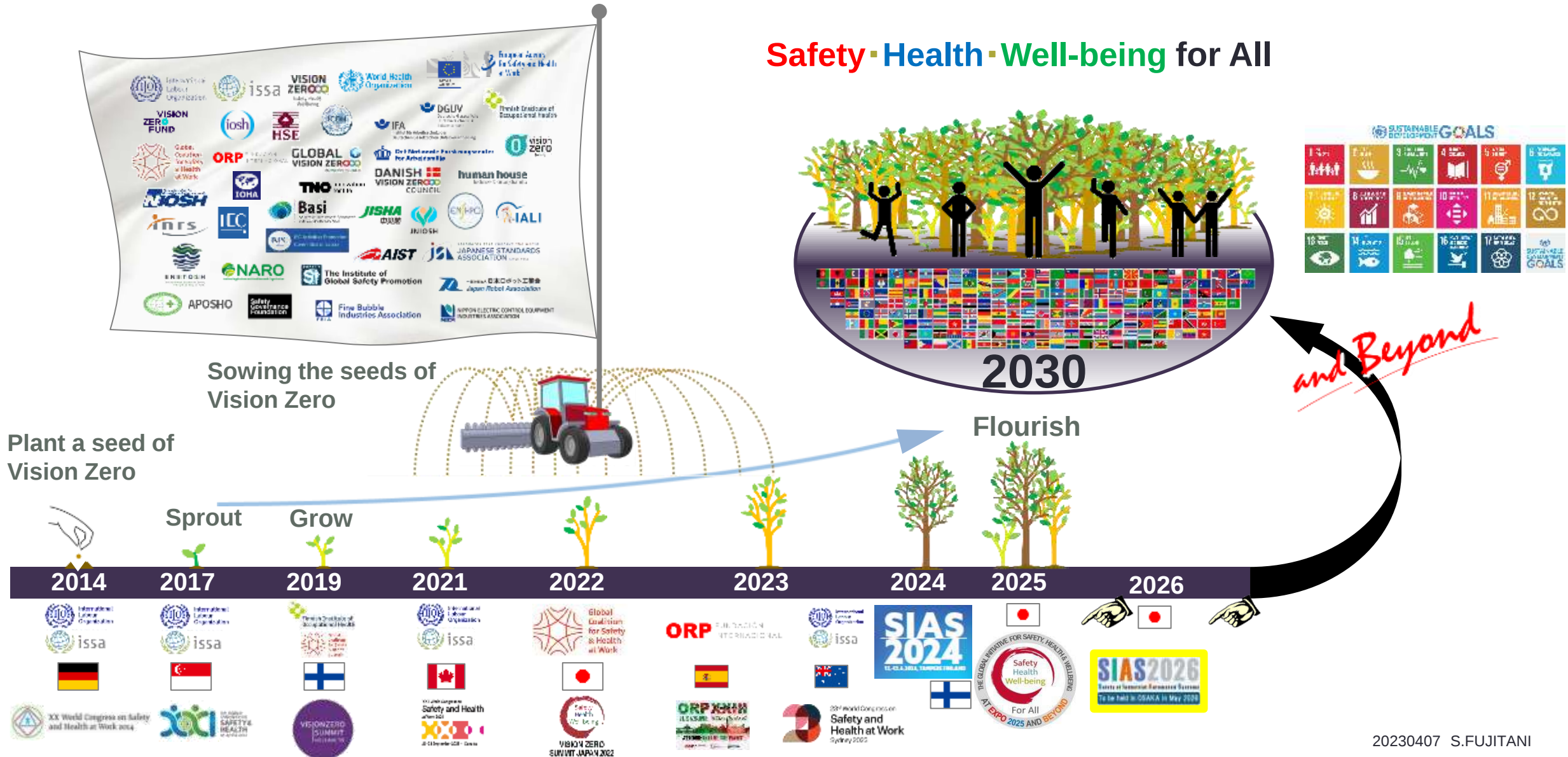
GISHW Supporters & Collaborators

More to join!



The logos displayed represent institutions and companies that are jointly promoting the improvement of workers' safety, health, and well-being. 表示されているロゴは、地球規模での働く人の安全、健康、そしてウェルビーイング向上を目指し、志をともに活動をしている方々が所属する機関・企業・大学等を表しています。

More to join!



参考図書のご紹介



[実践！ウェルビーイング 世界最強メソッド「ビジョン・ゼロ」](#)
| 一般社団法人セーフティグローバル推進機構 | 本 | 通販 | [Amazon](#)

GISHW参加組織、今回来日者を含めた国際連携により、ウェルビーイング、ビジョンゼロに関する考え方、発展経緯、多くの実例等をまとめた書籍を出版。



英国・デンマーク・スペイン・フィンランド・ドイツ・日本の専門家による共同執筆